

「これまでの20年、これからの20年」

これまでの20年

8月23日に、当社は設立20年を迎えました。昨年、社内で周年行事の検討委員会を立ち上げた時には、祝賀会、講演会、社員旅行など多くの華やかな企画が提案されました。しかし、コロナ禍収束の兆しが見えない中、人の集まるイベントは見送らざるを得ず、実施できたのは社史発刊と揃いのTシャツ制作だけという地味なものとなりました。

社史については、当社の規模で発刊するべきかどうか逡巡したものの、20年は一つの節目であるとの認識のもとに進めることにしました。参考としたのが、伊勢神宮で行われる20年に一度の遷宮です。宮内庁によると神宮建立技術を次世代に引き継ぐには20年毎の神宮建替を親方と弟子と一緒に経験するのが適切という考え方のもとに飛鳥時代の天武天皇から始まり、戦国時代に中断があったものの、2013年に62回目の遷宮を終えたそうです。人から人へ技術や思想を受け継ぐスパンは20年が限界ということを示唆していると思われます。社史制作にあたっては幸いにして多くの先輩方にご協力頂き、設立前後のエピソードを含め、このタイミングを逃すと歴史から消失したかもしれない事実を記録として残すことができました。

是非、「当社が社会的に存在する意義は何か」、「当社は社会に役立てるのか」、「当社はどこから来て、どこに行こうとしているのか」などを自問自答しながら、折に触れて読み進めて頂きたいと思います。

これからの20年

間違いなく、今後の20年は、過去の20年よりも一層激しい変化が押し寄せるでしょう。デジタル化、カーボンニュートラルの動きが加速することは疑う余地はないものの、そこにどのような世界が待っているかは全くの未知数です。あるシンクタンクによると、2040年の国別GDPランキングは中国を筆頭にインド、米国、インドネシア、ブラジル、日本の順と予想しています。このことだけでも、非連続的な動きが頻発し今とは全く違った世界が予見されます。

そのような、未知の世界で当社が生き残る唯一の方法は、どのような環境でも社会から評価されるスキルを磨くことしかありません。従来から、当社は人材育成を経営の最重要課題として取り組んできました。既に社内周知したとおり、社内で議論を重ね、今般、一層充実した育成プログラムを策定しました。是非、積極的にプログラムを活用して頂き、一人一人がどのような事業環境においても社会から必要とされるエネルギー従事者として成長することを期待します。そして、次の20年が当社にとって更なる飛躍の時代となるよう力を合わせましょう。

代表取締役社長 渡 好男



▲揃いのTシャツを着用しての人文字



社員紹介

技術営業部 ガス業務課

安田 樹
(やすだ たつき)

■学歴：県立沖縄工業高等学校
2010年3月卒
■入社日：2018年3月19日

- 主な資格：
- ・電気工事士2種
- ・ボイラー技士2級
- ・玉掛け
- ・小型移動式クレーン運転



▲ガバナ室点検の様子



▲トキめき新潟国体試合の様子

がとても大事ですので、無事にお客さまのもとにローリー車が配送され一日のLNG配送が終了したときは、しっかりと連携が取れて業務を遂行できたという達成感があります。

また、お客様への安定供給を行うことがPECの使命だと考えていますので、業務が終わり何事もなく無事に帰れることが最大の喜びです。

Q5 趣味

今は子どもが生まれたばかりなのでずっと子どもと遊んでばかりです。コロナ禍になるまでは、お酒が趣味で友人と居酒屋ばかり通っていました。早く収束して浴びるほど飲みたいです。

Q6 学生時代に打ち込んだこと

弓道部に所属し、周りの方々の協力もあり国体選手に選抜され、九州では団体優勝できました。新潟県で開催されたトキめき新潟国体(第64回大会)では結果を出すことは叶いませんでしたが、良い思い出になりました。

また、学業では普通高校では習わないであろう、原動機や電気回路等の専門知識について多く学びました。それは現在の仕事にも役立っています。

Q1 入社の動機

高校生の頃からインフラ事業、特にエネルギー関係の仕事をしたいと思っていました。前職が不動産営業だったので全く違う業種だったのですが、偶然PECの募集を見つけて、このチャンスを逃さないと応募しました。

Q2 仕事内容

主に、自分たちの設備の保守保安やお客様へガスをお届けするためのLNGローリー車の配送計画に携わっております。

Q3 仕事を進める上で気をつけていること

体調管理と安全に気を付けています。体調管理ができていないと業務に支障が出て、そこから大きなミスや事故につながるかもしれません。現場作業では一つのミスが重大事故を起こしてしまう可能性もあるのでダブルチェックや指差呼称を徹底しています。お客様に安心してガスを使用して頂くためにも日々の安全パトロールや点検、設備のメンテナンスを行い、ガス管の破損や事故の未然防止に努めています。

Q4 仕事のやりがい

LNGローリー車の配送運用は事業パートナーとの連携

当社業務紹介 《第7回目》

[技術営業部 ガス業務課] ガス導管パトロール

ガス業務課では、毎日当社ガス供給導管設備をパトロールし、他業者工事による導管への損傷防止および埋設導管上の道路の異常箇所の早期発見に努めています。また埋設ガス導管については、定期的に地上からのガス漏洩検査を行っています。

担当: 楊南健さんの一言

導管パトロール中は、道路の異常や他工事業者の工事予告看板が無いか、常に目を光させています。また、ガス事業法の定めにより定期的にカート式ガス検知器等を用いて、埋設ガス導管の漏洩検査を行っています。

また、道路上の埋設ガス導管漏洩検査をする際は2人作業で行い、交通に注意しながら注意深く検査を行っています。どちらも、安定供給を続けるためには、欠かすことのできない業務です。



▲埋設ガス導管漏洩検査(中城村内)

編/集/後/記

◎ 先日、国頭村をドライブ中に県道を横切る猪の親子に遭遇しました。脇目もふらず茂みから飛び出す親猪と、小走りで追っかける2匹の仔猪。まさに猪突猛進だが、世界自然遺産やんばるに生息する猪親子にとって私はよそ者。やんばるの路は一層やさしい運転が求められると自覚しました。

◎ 揃いのTシャツを着て事務所屋上で、社史掲載用の人文字撮影に臨んだところ、カメラマンから何度も手を大きく振るポーズを要求されました。年のせいか思うように肩が上がりないことにショックを受けるとともに、自分と同じように苦しんでいる同僚がいることに気づき、少し安堵しました。

01

【東京五輪閉会式】

電機課 西野立志さんが東京五輪閉会式の映像に登場

8月8日(日)に開催された東京五輪閉会式における日本の伝統芸能紹介コーナーで、電機課の西野立志さんが会長を務める平敷屋青年会のエイサー演舞の映像がメインスクリーンを通じて約1分半の間、全世界に発信されました。大役を終えた西野さんに話を伺いました。

Q1. 平敷屋青年会エイサーについて教えて下さい

A1. 100年以上(一説には約300年以上)前から活動を開始し、メンバーは約80名です。伝統を重んじ、古くからの形を守り続けているところが特徴です。全島エイサー・コンクールでは幾度もの優勝経験があります。

Q2. どちらからの依頼ですか

A2. 5月上旬にうるま市役所を通じて東京五輪の閉会式用に撮影したいとの話がありました。

Q3. いつ撮影しましたか

A3. 当初は6月初旬の予定でしたが、コロナ禍のため何度も延期となり、最終的に7月4日(日)に行いました。

Q4. 撮影時の苦労はありましたか

A4. コロナ禍のため、隊列の間隔を拡げたり狭めたりと何通りも撮らされ、結局、Take25程、同じ曲を演舞させられました。炎天下、約5時間も演舞し続けたので、体力には自信のある私でも厳しかったです。

Q5. 撮影後のエピソードはありますか

A5. 五輪終了後まで閉会式用の撮影があったことは他人に一切漏らないとの誓約書を撮影会社に提出させられたので、皆に自慢したい気持ちを抑えるのに苦労しました。テレビを見た近所の人からは、「驚いた。青年会すごいね。感動した」といった言葉をたくさん頂き、生涯の想い出となりました。

Q6. 社内のメンバーに一言

A6. 私は今年25歳を迎え、7年間続けた青年会を卒業する節目の年に大イベントに登場できました。課のメンバーには業務調整などで配慮頂いたおかげで青年会の活動ができました。ありがとうございます。



▲集落の祖先を祀っている神屋(カミヤー)での平敷屋青年会エイサー演舞撮影後の集合写真

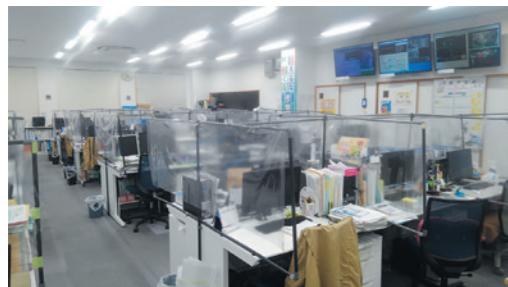
02

【感染症対策】

新型コロナワクチン接種

中城村役場より中城村商工会加入企業に対し、新型コロナワクチン接種についての案内があり、当社社員及びその家族の希望者が7月末までに2回目まで接種することができました。中城村は新型コロナウイルスワクチン接種プロジェクトチームを立ち上げ、接種がスムーズに行えるよう、地元の病院との連携、企業担当者との接種に向けての会議、予診票の記入指導等「中城スタイル」として取り組み、地元のテレビ局のみならず、キー局でも取り上げられていました。

ワクチン接種後も気を緩めることなく、感染防止に努めています。



▲事務所内の新型コロナウイルス感染防止対策

03

【防災訓練】

ガス導管破損を想定した緊急出動訓練

9月22日(水)に、ガス業務課にて緊急出動訓練を実施しました。今回の訓練は他工事によるガス導管の破損を想定したもので、破損地点直近の遮断弁閉止および昨年導入したプロパンガスを用いて、ガスを臨時に製造供給する移動式ガス発生設備の設置手順を一つ一つ確認しながら行いました。

<担当者の声>

ガス業務課 喜納克文

客先担当者さまとの現場協議や移動式ガス発生装置(PA装置)組立・試運転等を行い、実態に即した有意義な訓練になったと感じます。

訓練後の反省会でも活発な意見交換がなされ、今後に向けた改善点などを踏まえて、保安体制の更なる向上に努めて参ります。



▲移動式ガス発生装置組立作業の様子



▲防災訓練後の反省会の様子

20年後のありたい姿 my future image

当社の若手社員に20年後の当社の将来像、そしてこれからの抱負について語って頂きました



技術営業部
ガス業務課
神里 叶夢 (21)

◎20年後の当社の将来像

友人や親戚などに会社名を伝えたら「ガスを売っている会社だよね」と反応が返ってくるぐらい、貢献している意味で有名になっていたらいいなと思います。

◎これからの抱負

(仕事面)

経験や知識から、レベルの高い作業や事務的な業務ができるよう、現在目標としているガス主任技術者資格の取得や、現在の仕事内容の理解を深めたいと考えています。さらに、多くの先輩のいい所を自分の物にし、年々成長できるよう頑張ります。

(プライベート面)

将来は、2階建ての家を建て奥さんと毎日楽しく暮らしたいと思います。また、毎年一度は旅行することが目標です。そのために適度に貯金し、計画を立てお金を大切に使っていきたいと考えています。



技術営業部
電機課
照屋 智也 (20)

◎20年後の当社の将来像

20年後、我社は「お客さまからより一層頼られるプロのガス、電気屋さん」になっていると思います。なぜなら、今現在、PECは若い世代が多く活力に溢れているからです。

◎これからの抱負

(仕事面)

PECに入社して2年目で分からないことだけですが、業務を通して、知識面や相手とのコミュニケーションが上達していると実感しています。現場作業など日々の業務を怠ることなく、これからも気を付けていきます。ご安全に!

(プライベート面)

私は旅行が好きなので、20年後までに日本全国を制覇したいです。日本各地の絶景を観たり、頬が落ちるほど旨い郷土料理を食べてみたいです。

04

【大型案件】

石川火力発電所非常用発電設備設置工事

沖縄電力では、平成30年9月6日(月)に発生した北海道胆振東部地震に伴う大規模停電を受け、電力インフラにおけるレジリエンス強化を目的に、石川火力発電所構内に非常用発電設備(出力:4,000kVA)の新設を決定しました。

当社は同発電設備の機器調達から設置工事を昨年9月に受注し、本年8月上旬に実施した工場立会い試験を終え、9月6日(月)に新設建屋内へ主要機器を搬入しました。

搬入当日は、石川火力発電所様の社員駐車場を全面使用禁止としたうえで、早朝6時から130tクレーンの組立作業を開始し、21時までの長時間作業となりましたが、発電所関係者さまのご協力と天候にも恵まれ、滞りなく無事に作業を終えることができました。

今後は11月の運用開始に向け、引き続き安全第一に完工を目指します。

<現場代理人 電機課 知名俊英>

8月23日(月)より現場代理人として工事を担当しています。今回、沖縄本島の全島停電(ブラックアウト)に備えた、非常用発電機の設置工事ということで、プレッシャーを感じての担当業務となります。無事故・無災害で竣工できるよう現場監理に努めます。



▲非常用発電機搬入の様子



▲非常用発電設備建屋全景

05

【社会貢献】

献血への協力

沖縄県赤十字血液センターから献血の協力依頼があり、7月13日(火)吉の浦火力発電所構内に駐車した移動献血バスにおいて、当社から4名の役職員が献血に協力しました。



▲献血に協力する儀保常務